

# 府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会々報  
2009年 春号 4月 8日発行/季刊  
発行人：竹内 章  
連絡先：府中市分梅町 1-20-3  
TEL 042-364-3428

## 第9回 レンゲまつり



年々少なくなっている  
レンゲの咲く風景。  
今年も関係者の努力で  
「レンゲまつり」を開  
く予定です。

とき：4月25日(土)午前10時  
から...雨天とその後の足  
元のコンディションが悪い  
ときは順延になります。  
ところ：押立1丁目の戸塚  
さんの田んぼ



- 花飾りあそび
- 竹とんぼづくり
- わらぼうしづくり
- コカリナ演奏
- 紙芝居
- 落語
- 草ぶえづくりと演奏
- ネーチャーゲーム
- 実演 蜂蜜採取と販売
- 府中産 新鮮野菜販売
- 写真展示「農のある風景」
- レンゲ田情報コーナー

主催：NPO法人 府中かんきょう市民の会 / 後援：府中市 / 協賛：日本レンゲの会

## 田んぼの学校2009 5月下旬に開校します

田んぼの一年は代かきからはじまるのではなく、その前に種まき、田おこしもあります。また、脱穀・粃すりの後も精米作業があります。という具合にほぼ一年を通した農作業により、おいしいお米ができるのです。

また、雨が降ったら休むのではなく、田植えは苗にとり、水が必要な時期ですから、雨天でも予定どおり開校します。逆に脱穀などは稲が乾燥した状態でないと、カビが生えたりするので、天気を予想して、ハサかけの稲を事前に建屋に収納して、当日作業するようにします。

田んぼの学校では月に一回の授業なので、毎日の観察はできません。しかし、バケツ稲栽培は毎日、ベランダや庭で、生長する稲の観察ができます。そして、田んぼ稲との生長比較もできます。

ベランダでも庭でも、日当たりのいい場所で、バケツをおけるスペースさえあれば、水やりなど、家族みんなの協力で、生長観察を楽しめます。ぜひ、挑戦してみましょ。スタッフでは、毎回、バケツ稲相談コーナーを開きますので、なんでも相談してください。

- 第1回 5月下旬 しろかき体験... 田植え前の田ならし(どろんこ遊び)
- 第2回 6月下旬 開校式・田植え...田植え、バケツ稲の苗と土を支給
- 第3回 7月上旬 田の草取り・植物観察...水中の草、水に浮いている草、稲の草丈・ぶんげつ(茎の数)の観察
- 第4回 8月上旬 稲の花・田んぼの虫観察・かかしづくり...稲の花(オシベ、メシベ)、トンボ、オタマジャクシ、かかしはスズメなどの鳥害を防ぐもので日本の原風景になっています。古着を持ち寄り自慢の創作かかしを作りましょ
- 第5回 9月下旬 稲刈りとハサかけ...稲穂の観察(モミのつき方と数)、刈り取りした稲束を天日(自然)乾燥のため、稲架に干す作業体験
- 第6回 10月中旬 脱穀・粃すり体験...脱穀機でモミにし、粃すり機で玄米にする
- 第7回 11月上旬 収穫祭・終了式...収穫したお米で、おにぎりづくりやビデオ観賞、修了証授与、会場の飾り付けも体験。参加者交流も盛り沢山。 昨年の経験に学び、受講生徒と保護者だけでなく、家族みんなが参加できる楽しい会にしたい。

主催：NPO法人 府中かんきょう市民の会  
場所：東京農工大の府中本町農場(武蔵府中税務署前)

## 話題提供

## 動き出す校庭芝生化

## 府中市でも「校庭芝生化」が動き出した

府中市「環境基本計画」の重点項目に、「エコスクール化」が取り上げられて久しいのですが、この程これを受けて、第2小学校と第5小学校などをモデル校として、校庭の芝生化が実施されるようです。費用の全額は都の補助によるとして、市の計画は・・・

着工予定 2009年6月  
初期費用 約2億円(3校分)  
年間維持費 1校あたり100万円程度

ただし、都は補助対象条件として、「児童生徒・PTA・地域が、維持管理を行うこと」、「三年間、校庭の気温、湿度を観測、報告すること」となっています。



ポット苗の芝生を植えて1カ月後の様子（鳥取市内のぞみ保育園の例）…鳥取市公式ウェブサイトより

## 都内29小学校が校庭芝生化

東京都によると、都内で校庭芝生化を終わった小学校は2008年末で29校です。試みに、「校庭芝生化」をキーワードにネット検索してたまりました。何と何と、30万件を越える情報が飛び交っていました。古いもの、重複、スポンサー広告を差し引いても、容易ならざる情報量です。

「校庭芝生化・東京都」で検索しても22万件、後で紹介する「鳥取方式」で検索しても11,000件です。

「子供達皆が、プレーヤーや、ラグーマンになるわけでもありません、何でそう芝生化、芝生化と騒動するんや！」

その背景にあるのは、芝生化の効能・効果です。良い事づくめのその情報の詳細はとも書ききれませんが、あえてまとめてみました。

## 校庭芝生化の効果

## ①健康保全効果(5項目)

\*環境ストレスの削減。\*健康促進の場の提供。\*癒し空間の提供。\*園芸療法としてのリハビリの場の提供。\*アレルギー物質の制御。

## ②環境保全効果(8項目)

\*空中汚染物質の吸収。\*酸素の発生。\*微粒子物質の除去。\*気温の調節。\*水の浄化と地下水の補充。\*火事の延焼防止。\*土壌の改善。\*土壌侵食防止。

## ③教育上の効果(2項目)

\*教育活動・体育活動の活発化。\*環境教育の教材としての利用。

これに対して、デメリットを報告した事例は乏しく、まとめると次のような点が指摘されています。

- ①初期コストと維持費の負担
- ②維持管理の労力と難しさ
- ③教師へのしわよせ
- ④出来なくなる遊びがある(竹馬、一輪車、軟式テニスなど)

芝生化の背景を、先ずはよく見極めておくことが必要です。そこには幾つかの課題も見え隠れしているようです。

## 校庭芝生化コストと鳥取方式

府中市では、芝生化の初期コストを1校当り平均7千万円程度と見ています。ちなみに杉並区和泉小学校の場合3,300万円だったそうです。(当会会報の報告)

そこでここに、鳥取市の低コスト芝生化モデル事業のウェブサイトから、「鳥取方式」と呼ばれる芝生化について紹介してみます。

これは、ニュージーランド出身の、ラグーマン、ニール・スミス氏が提案した方式で、特徴は、バーミューダーグラス(ティフトン)という、牧草を改良して作られた芝種を使用することで、痛みに強く、成長が早いということです。さらに鳥取方式では、このティフトンを全面に植えるのではなく、ポット苗として、1㎡間隔で植えて成長させるのです。全面ではなく、ポット方式(写真上)のため、初期コストは120万円済んだという報告もあります。また、このティフトンは雑草と共生しやすいため、補植や除草費用も激減するといわれています。

この初期コストの、大きな違いは、一体何処から来るのでしょうか。

## ほとんど失敗した1970年代の芝生化

近年の、エコスクール化の中での芝生化がブームとなる以前、1970年代に文科省の推奨で、多くの学校が芝生化に挑戦しました。そして、この試みはことごとく失敗に終わりました。

何故か。その原因を、千葉県の前校長、佐藤光利さんは、次のように整理しています。

①当時学校は学級増で、狭い校庭で多くの子供達が遊び、芝生がすぐに痛んだ。②養生期間を設け、遊び禁止期間とすると、保護者からの苦情が殺到した。③教職員が芝刈りや散水に多くの時間を取られ、大変だった。

芝生の養生管理、維持管理のほとんどを、教職員に委ねた結果、教職員は芝生の管理を敬遠し、芝生をダメにすることにつながったようです。

# を考える

梶島 弘通



2カ月後、見事に育った様子（左の写真と同じ保育園）  
…鳥取市公式ウェブサイトより

この失敗の轍を踏まないために、1990年代に入ってから  
の芝生化事例では、芝生管理をサポートする人的体制  
づくりが鍵になっています。ちなみに、多摩市立南鶴牧  
小には、7参加団体による、南鶴Gネットというサポート組  
織があります。府中市では、地域の協力は得られるとして  
いますが、どんな準備と説明がなされたかは不明です。

## 校庭の芝生は「スポーツターフ」です！！

激しい運動をするグラウンドの芝生を「スポーツターフ」と云  
います。学校の校庭の使い手は、主として児童生徒とはい  
え、激しい運動や遊びをする、「スポーツターフ」と考えるの  
が良いようです。

それ故に校庭の芝生化に当っては、先ずハード面での周  
到な準備が必要のようです。土壌造りと適正な芝種選び、  
排水基盤工事、散水機の設置などです。

芝生には、暖地型と寒地型があり、その選択にはどの事  
例も工夫を重ねています。それが維持管理に大きく影響す  
るからです。

そしてソフト面では、「グリーンキーパー」や、「グラウンドキー  
パー」などの、専門家の協力は絶対に欠かせないようです。  
一人の専門家で4校くらいは指導可能のようです。そしてこ  
れらのことには、相応のコストを想定しなければなりません。  
府中市の年間維持費約100万円は、どのような試算に基  
づくのでしょうか。

## 「校庭を芝生にしよう」説明会のこと

2006年12月に、「21世紀校庭緑化研究会」主催の「校庭

芝生化セミナー」が開かれ、その時の演者の一人、屋  
下氏が造園技術者としての立場から、芝生化に当  
てての事前説明会の重要性を、強く述べられてい  
ます。

最後に、その内容をまとめて提示し、私の話題提供と  
します。

### 校庭を芝生化しよう！

説明会の準備

説明対象

教職員・PTA・地域・児童生徒・開放利用団体

説明内容

- \*管理は誰の負担になるの？
- \*どんな芝生にするの？
- \*養生期間はどのようになるの？
- \*雑草は大変でしょう農薬は使うの？
- \*開放利用の制限は？
- \*体育や遊びへの影響は？

### 課題の整理

さあ、皆さんどうします！！

これまでの話題から、芝生化の課題が見えて来  
ましたが、下表にそれを整理しておきます。なお、更  
に関心のある方は、ネットで検索される事をお勧め  
します。ホットな情報が飛び交っています。

そして、その情報をもとに、実際にいろいろな所へ  
調査に行くことも必要でしょう。

- ①適正な初期コストでスタートするのでしょうか。府中  
市の1億2千万円の試算内容や、他の事例の調査が  
必要でしょう。
- ②芝生にはいろいろあります。夫々に性質が異なり、  
維持管理にも違いが出てきます。目的にあっている  
のでしょうか。
- ③市は、地域の協力は得られるとしていますが、誰に  
どう説明しているのでしょうか。
- ④維持管理の困難さから考えて、それを委ねられる  
側には、費用負担を含めて詳細な説明が必要です。
- ⑤市民は、メリットばかりではない芝生化に、どのよ  
うな効果を期待するのでしょうか。そのために、継続  
して情熱を傾ける覚悟はあるのでしょうか。

只今、燼坊梶島の粗雑な頭の中には、芝生が生えて来  
まして、思考停止に陥りました。御免下さい

# バードウォッチングへようこそ

## 多摩川野鳥観察会

多摩川野鳥観察会が開催された2月8日は、暖かくなると予報があり、澄み切った空に富士山がくっきりと浮かんでいました。「広報ふちゅう」で参加を申し込まれた20数名余りの方々は郷土の森博物館入り口に9時に集合。親子連れも何組か見られます。

まずは案内役の大沢さんから双眼鏡の使い方の注意。「双眼鏡で太陽を見ないように。目玉焼きになってしまうよ」そして遠くの鳥を見る練習。「鳥を見つけたら視線をそこから離さずに双眼鏡のほうを目にあてがいます」

遠くの建物を見ながら皆で練習をして、さあ出発です。スタッフの方はフィールドスコープ(地上用望遠鏡)も用意しています。

郷土の森公園の芝生にツグミがいました。ツグミは地面に対して体が45度ぐらいの『胸を張ったような姿勢』をとりますとの説明。少し先ではコゲラが木の幹に止まっていたので時間をかけて観察。向こうのテニスコートの芝生の上を何かヒラヒラ飛びまわっています。小さいので双眼鏡ではどんな鳥かよくわかりませんが、こんな時にはスコープが活躍します。カワラヒワの群でした。子ども達も順番に並んでスコープで観察。

次は多摩川の河原に下りて鳥を探します。天気の良いせいか、水面や対岸へと目を凝らすといろいろな鳥が飛んでいます。餌になる虫や魚がいるのでしょう。参加した方々は双眼鏡を手にあちこちの鳥を眺めていました。トビが下流のほうへ飛んでいきました。川の中に真っ白なコサギがいました。「コサギはカワウの近くによくいます。カワウは水に潜って魚を捕りますが、コサギはカワウに追われた魚を狙っているのです」との説明。

何箇所か河原を移動しながら観察した後、総合体育館の会議室で鳥あわせをしました。野鳥の写真を見ながら観察した鳥を確認します。大沢さんはこのコースを毎月歩いておられるので、どの辺でどんな野鳥が見られるか熟知されています。豊富な知識とわかり安い説明が好評でした。いくつか紹介しましょう。

### コゲラ

キツツキの中で最も小さく、スズメぐらいの大きさです。羽は茶色と白のシマシマ模様。扉がきするように「ギーギー」と鳴きます。木の幹に止まり、虫を探しているのが見られます。



### ムクドリ

オレンジ色のくちばしと足。全体的に茶色っぽい鳥で飛び立つとき腰と尾の先の白色が目立ちます。夕方は群れになって、ねぐらに集まります。



### ハクセキレイ



白っぽい顔に黒い眉。細身の体は、背は黒く、お腹は白い。長い尾をせわしなく振りながら、畑や公園のような開けた場所を歩いているのが見られます。飛ぶと白い翼が目立ちます。

### 当日、観察できた鳥たち

#### 公園内

ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシブトガラス、ジョウビタキ、ドバト

#### 多摩川

コガモ、トビ、ホオジロ、ムクドリ、コサギ、カワウ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒメアマツバメ、マガモ、オオバン、セグロセキレイ、カイツブリ、ハクセキレイ、ダイサギ、ハヤブサ

25種＋外来種1種でした。

かんきょう市民の会では、市から委託を受け「市民ボランティア環境調査」を実施しています。野鳥観察はその一環で、「郷土の森周辺と多摩川沿いを大丸堰から読売新聞社前」までのコースで毎月、定点観察を行なっています。

「あのさえずりは?」「いつも見かける鳥は?」など野鳥のことを知りたい方は是非1度ご参加ください。日程など詳細は市民の会のホームページに掲載されています。

(梅沢みどり)

# 「緑の基本計画」はどう変わるか

市民の日常生活にとって、とても大事な府中市の「みどり」は、実際はどのような状態なのでしょう。また、どの点が評価ができ、問題点は何なのか。そして「みどり」の状態は今のままで良いかどうか。これらを検討する「緑の基本計画」見直し検討協議会が、昨年府中市に設置されました。

私は「NPO法人府中かんきょう市民の会」から委員として参画しましたので、大事なポイントを報告します。

私が検討会に参加した基本的な姿勢は、「わがまち府中」が成熟し、一段と住み良いまちになるようにすればどうすればいいかということです。そのため検討会議では勿論、会議以外の場所でも、いろいろと事務局に意見や提案をしました。

では現在の「府中市の緑の基本計画」とは、どのような計画なのか。いっぽう、改訂される新計画はどのような目標を持つ計画になるのかといった点も合わせて整理してみたいと思います。

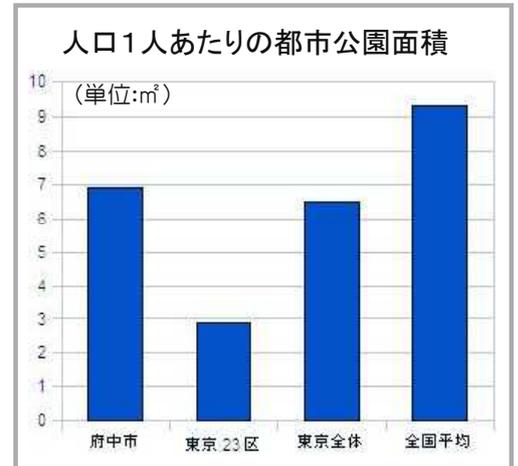
見直し検討協議会は府中市の公園緑地課の所管で、委員は学識経験者、団体推薦者、公募市民の15名でした。会議は昨年6月から今年の1月まで6回行なわれました。

そもそも「緑の基本計画」の根拠は「都市緑地法」であり、その第1条の目的には、「都市の緑地の保全と緑化の推進」とあります。この目的達成のためには第4条に「市町村は都市計画区域内に『緑地の保全と緑化の推進』のために『基本計画』を定めることができる」と規定されています。「～できる」とありますが、条文の読み方としては、ほぼ計画を作らなければならない市町村の「義務的な計画」と解釈されています。

このことは、都市における「緑の役割」は、空気の清浄化、気温の調整、騒音防止、やすらぎ・うるおいの醸成

等々、地球の温暖化とともに都市住民にとって、年々緑の存在が他に代えることのできない貴重な環境の構成要素となっているためです。

さて、私が主張した要点は市民の緑との共生の重視、現状分析の徹底と、その新計画への反映、緑の保全と活用の進行管理、小さな空き地の大事な扱い、多面的な役目を果たし



ている農地の保全と活用、法定外公共物の水路や里道の適切な活用、地域別の緑の保全活用計画の樹立、府中崖線の保全の条例制定と公有地化、府中基地跡地の現状の緑を活かした公園化などです。この他、緑に対する多くの具体的な提案も行いました。

特に府中市の緑の現状は、平成20年市政世論調査の結果に見るように、緑に対する市民意識は「緑の豊かさ」が85%と高いプラス評価を得ています。しかし緑地の現状と目標のデータを良く見ると、多摩川の緑が大きく寄与しており、市域内緑は、その分少ないわけです。残念なことですが緑の地域差があるともいえます。

府中市の緑が市全域に占める面積(緑被率)は平成20年3月時点で27.6%であり、国の目標は30%ですから、かなり良好な状態とすることができます。しかし、府中市は人口増加が著しく、1人当たりの緑の面積が6.9平方メートルで全国平均(9.3平方メートル)よりはかなり少なく、東京都の平均(6.5平方メートル)よりわずかに多い程度です。今後も人口増加が続くと1人当たりの緑の面積の減少は当分続きますので、この点に大きな課題があります。

現在の「緑の基本計画」は、10年前の平成11年に策定され、公園・緑地の「量」の確保が主眼でしたが、新計画は府中市を取りまく状況に大きな変化があり、「質」を重視した「量より質」への目標転換が特長です。この目標達成のために28項目の具体施策を打ち出そうとしています。今後、行政・事業者・市民が協働して取り組むことが求められています。

現在、市公園緑地課では、見直し検討協議会の議論をふまえて、新10年計画をまとめており、この会報が発行されるころには、パブリックコメントの募集も済んでいると思います。新計画ができましたら「よりよい府中らしい府中のまち」の実現に向けて、市民参加を強めたいものです。

(大崎 清見)



府中崖線の保全も大きな課題のひとつ(白糸台4丁目付近)

# 府中市議会 住民投票条例を否決

## ●これまでの経緯

府中市は平成20年12月の市議会に「府中市廃棄物減量等推進審議会（以下廃減審）」の答申と、その後の市民・事業者へのアンケート調査結果を踏まえ、府中市における家庭ごみの収集方法を見直す方針を提示した。その内容は概ね次の通りである。

[目的]ごみの発生抑制・再利用・リサイクルを推進することにより、循環型社会の構築を図るために「家庭ごみの収集方法」を次のとおり見直す。[内容] ①家庭ごみの有料化(家庭ごみの処理手数料の徴収)。②戸別収集方式の導入。③ダストボックスによる収集方式の廃止。  
[実施時期] 平成22年2月。

平成20年12月17日、市議会は「家庭ごみの有料化」「ダストボックスの撤去」という市長方針を18対10の賛成多数で了承。

府中市は「廃減審」の答申を受け、内容について住民説明会を開催し説明を繰り返し行ってきた。さらに2000名にアンケート調査を行い、「住民の過半数の理解を得られた」との判断を行った。

しかしながら、市民の関心の高いダストボックス撤去についてのアンケート結果は、「全面的に賛成(11.7%)」、「市の説明や姿勢に納得できるなら廃止もやむを得ない(44.7%)」、「絶対反対(33.2%)」であった。

ところが、府中市は「市の説明や姿勢に納得できるなら廃止もやむを得ない(44.7%)」を詳しく調べることもせず、これを「賛成」と解釈し、「過半数が理解をしている」としているが、これは意図的である。ごみ問題については、住民説明会に於いても賛成派は一部の市民で、むしろ反対派の方が多く、特にダストボックス撤去については住民から様々な反対意見が出された。

## ●住民投票条例制定に向けての動き

こうした経過を踏まえ、府中市並びに市議会の決定は必ずしも市民が合意したものではない。との意見を持った市民から市民合意を求めるべきであるとの動きがあり、市内在住の弁護士、五百蔵洋一氏を中心とした市民有志「市民合意を求める会」が発足。地方自治法に基づく常設型の「府中市住民投票条例制定」に向けて直接請求運動が展開された。

直接請求運動を行う場合は、有権者の50分の1以上の署名が必要で、府中市の場合は3977名の署名が必要要件となる。直接請求の場合は通常の署名運動と異なり住所、氏名の他に生年月日、捺印も必要。

署名運動は平成20年12月16日から平成21年1月15日までの1カ月間行われ、約8400名以上の署名簿を提出したが、府中市選挙管理委員会のチェックの結果、必要数の約2倍の有効署名7828が集まった。

## ●本条例制定に向けた本請求と市長の意見

2月20日、市選管が請求要件を満たしていると認定した署名簿を添えて、市長に本請求の書面を提出。これにたいし市長は、2月24日招集の市議会に対し市長意見を付して、地方自治法に基づき「府中市住民投票条例」案を提出。市長の反対意見は次の通り。

<市長意見> 本条例案を制定することは適当ではない。  
<理由> 住民投票制度については、重要な政策課題のうち、首長と議会の間、又は首長・議会と住民の間の意識に乖離が見られると考えられるものに対し、直接、住民に問う制度であって、首長及び議員の判断に直接民意を反映させる手段の一つとして、議会制民主主義を採用する地方自治制度を補完するものと評価している。しかし、地方自治制度を補完する制度であっても、本条例案のように常設型とする場合には、制度の濫用等による頻繁な住民投票の実施により、行政運営の停滞や多額の費用負担の問題を生じさせる恐れがある事などから、その導入については、極めて慎重な検討が必要であると認識している。この検討に当たっては、当該制度の導入の適否を始め、制度運用の方法などについて、市議会との間においても、相当の時間を掛けて慎重に議論を重ねるべきであり、このような検討を経ず、拙速に制度を導入することは避けるべきである。以上のことから常設型の住民投票制度については、直接請求の手法により直ちに導入すべきではないと考える。というもの。

## ●本条例制定に向けた市議会の判断

本条例制定について2月27日開催された市議会の「総務委員会」で審議された結果4:3の賛成多数で可決されたが、3月11日に開催された本会議で再審議された結果14:14の同数となり、議長採決では本案に議長が反対した結果、否決となった。

## ●考 察

今回集められた署名の数からも、市民のごみ問題や住民投票に対する関心は極めて高いことが示された。市議会が市政の中心的役割を担う事は理解できるものの、市政運営上の重要事項があるときは、市民の直接請求により意思決定し、民意を得た市長と市議会が民意を背景に強力な市政を実行することが、民主主義の発展、地方分権の時代にふさわしい姿であると考え。今回の市長並びに市議会の判断が地方自治制度重視の立場から真に正しいものであったか否かについては疑問を感じざるを得ない。

(市政への提言委員会)

一口メモ 1996年、新潟県巻町の新原建設の是非を問う日本初の住民投票以来、各地で基地問題、産廃建設や合併の是非をめぐる多くの自治体で住民投票が実施されている。広島、川崎など政令市でも常設型の住民投票条例をもっている。

NPO法人

## Do Tank たまじん 府中を歩く

平成20年の暮れがせまった12月20日に、「NPO法人Do Tankたまじん」からの要請で、当会が府中市内を案内しました。

「NPO法人Do Tankたまじん」は、主に都市プランナーや建築家などが集まり、多摩地域を中心にまちづくり活動を行っている組織です。これまで、「たま歩き」と称して多摩地域内のまち歩きを20回以上実施しており、今回は府中を歩きたいとのことで、当会に案内依頼があったものです。

当日参加された人たちは、若い人たちが多く「たまじん」の活動内容の充実と広がりを感じられました。当会からは、竹内理事長と竹田さんにも案内をお願いし、4時間ほど市内を案内しました。

## 案内したルート

「たまじん」では、過去に1回府中歩きをしているとのことでしたので、私は次のことに配慮し、案内ルートを決めました。①府中のまちづくりの最新情報の提供 ②府中の驚きと感動の体験 ③府中かんきょう市民の会の取り組みのPR

そのルートです。

府中駅 ⇒ けやき並木沿道景観の課題と現場 ⇒ 大国魂神社 ⇒ 東府中駅から東京競馬場 ⇒ 鳩林荘 ⇒ 東郷寺 ⇒ NPOと農家による畑の学校

## 府中を案内しての私的感想

(1) 府中のまちづくりの最新情報の提供としては、住友不動産のマンション開発によるケヤキ並木の景観問題を竹内理事長に解説していただきました。

〔私的感想〕景観は見えることで評価ができると思いますが、府中のけやき並木は、参道に自動車を通り、狭い歩道からしか見ることができません。



けやき並木では「景観形成推進地区」に建てられる高層マンションの景観問題(写真右上に計画中)も見てもらった。

けやき並木の周辺景観をよりよく保つことを市民意識として共有するためには、渋谷の表参道のように歩道を広くするか、車道の歩道化を実現することが必要なのではないのでしょうか。

(2) 府中の驚きと感動の体験を得られる場所として、東京競馬場を案内しました。一昨年にリニューアルした競馬場は、スペイン風の内装にあつらえ直され、アミューズメント施設としても魅力的な施設となっています。

〔私的感想〕東京競馬場は、府中市民でも訪れた経験がない人も多いのではないのでしょうか？日本ダービーの観戦に訪れる20万人を収容できるスタンドは、驚きです。味の素スタジアムや国立競技場など、我が国最大級の競技場でも収容人数は6万人程度です。満員に埋まったスタンドの光景は、きっと感動できるものと思います。

今年日本ダービーは、5月31日に開催されます(写真:日本ダービー風景)。

(3) 府中かんきょう市民の会の取り組みのPRは、畑の学校を案内しました。農家と市民の協力関係や都市農業の問題などへの当会の取り組みを、竹田さんから説明をしていただきました。お土産に、採れたての長ネギを持ち帰ってもらいました。

〔私的感想〕都市農業の構造的問題は誰もがわかっていることですが、なかなか具体的な対策に結びつかない現実があります。「たまじん」の方々も、実践的な取り組みに関心を示していました。市民活動は、一步ずつの歩みが大きな実になることを信じて、今日も小さいながら一步を踏み出すことが大切なのだ、改めて思いました。(落窪一人)





# 持続可能な地域づくりをめざす 飯田市の自治体経営に学ぶ

西宮 幸一（会員）

さる1月22日に、東京農工大・府中キャンパスで、長野県飯田市の牧野光朗市長による公開講座が行われました。

牧野市長は、環境技術や地域開発、国際協力などのプロジェクトに対し長期資金供給を行う政府系の金融機関である「日本政策投資銀行」（今は株式会社化されました）の出身とのことでした。

「地域開発」というと、途上国に無駄なダムを作るとか、かつてのマルコスやスハルトといった開発独裁型の国家統治者が想起され、わが国ではあまり芳しくないイメージですがもともとは、住民が、自ら課題を解決しながら地域発展をめざすことが目標です。そのため、地域の課題を発見し、市民の参加を得ながらプロジェクトを進めていくプロセスには自治体経営にとって学ぶべき点が少なくありません。地域コミュニティの主體的な合意形成を重視するNGOの取り組みについてはとくにそうですし、逆に、批判の多い事業に関わってきたコンサルタントや事業者、「日本政策投資銀行」のような融資者・資金提供者などが、反省に基づいてまとめた提案やパイロット事業などにも、参考になる内容があります。



こうした背景を考えると、牧野市長の市政運営の方法論は、投資銀行で培ってきたキャリアがかなり反映された、地域開発手法のある種の典型、という感じがします。

まず高齢化の進展と年少人口の減少、さらに高校卒業後、飯田から離れたまま戻らない学生の存在など人的資源をめぐる要因により、地域の存立が危ぶまれることから、①帰って来られる「産業づくり」、②帰ってきたいと考える「人づくり」、③住み続けたいと考える「人づくり」の3本柱か

らなる《文化経済自立都市》を構想しています。

そのうえで、飯田市に定住してもらえるような環境整備策として、地域資源（工業集積、人形劇等の地域文化、など）を再生させる地域経済活性化プログラム、飯田に誇りと愛着を持つ人を地域で育む力＝地育力の向上をめざす「地育力向上連携システム推進計画」に基づいた体験学習やキャリア教育、人材ネットワークづくりなどを進めています。

そして持続可能な地域づくりのもうひとつの視点として、「環境」面を強調しています。太陽光市民発電の試みや、地域ぐるみ環境ISO研究会など、従来から全国的に注目を集めていた取り組みを、NPOや地元企業（部品関係など）と連携して継続しているようですし、平成20年度には、低酸素社会実現に努力する自治体を国が財政面などで援助する「環境モデル候補都市」に選定されたとのことでした。

以上のような方法論を、牧野市長は、飯田市の特産品である祝儀袋などの「水引」にかけて、地域の結びつき（結い）の力を発揮して地域の将来を切り開こうという「水引型地域運営」と名づけています。

個人的には、「持続可能な地域づくり」のための到達目標を明確に掲げ、その実現にとって最も近道となる政策を精選する自治体経営手法と、「人材」と「環境」という2つの地域資源の活用に徹底的にこだわるプロジェクトの進め方に、牧野市政の特徴と、府中市への応用の可能性を感じたところです。



写真上、牧野市長が「水引型地域運営」構想を唱えるもととなった飯田市の特産品「水引」の一部。（アイデア商品『雛人形』…飯田水引協同組合のホームページより）。写真左は農工大での講演風景。